



「リハビリテーション技術全書」(改訂第2版)

服部 一郎・細川 忠義・和才 嘉昭 著

本書は理学療法士、作業療法士であれば誰もが一度は手にしたことがある我が国の代表的なリハビリテーション技術書である。1974年の初版以来実に9刷まで重ねられ、本年第2版が出版された。その10年間に我が国のリハビリテーション治療概念、技術、分野等は目覚ましく進歩し、多くの論文や書物が出版され、本書の利用価値が低下してきたことは否めない事実であった。ところが第2版では新たに失認・失行等の高次中枢機能障害に対するアプローチ、極低温療法、バイオフィードバック療法、サイベックス、乳房切除と振動病に対する治療アプローチ等が加わり、各種資料、参考文献の追補、細かい点での加筆により、その変化が忠実かつ的確に記載されている。旧版と比較して読むと10年の歩みがわかり興味は尽きないのである。そして第11部第3章片麻痺は大幅に加筆されており、学術的内容も多く、片麻痺を専門としている療法士にも大いに役立つと思われる。

他の成書に類を見ない本書の特徴は2つあるように思う。一つは、第1部と10部でリハビリテーション医療の実際を、従事者のために手取り足取りで指導している

ことである。これから臨床に携わる者にとって必読の章である。同時に行間より執筆された先生方の哲学が読み取れ、考えさせられることが多い。もう一つは運動療法、物理療法、ADLで用いられる手法および器具について膨大な情報が載っていることである。それらを手軽に再確認でき、また本書を近くに置いておくだけで心強いのである。反面、それぞれの功罪、新旧、あるいは背景の説明が少なく、神経生理学的アプローチに見られる手技についての記載が僅かで、発達生理学的視点が不足し、CPに対するアプローチが含まれていない。これらについては他書を併用すべきである。

最後に、これだけの内容を持つ1000頁余の書を紹介するにあたり、いまだ思うところの1割も表現できていないことを敢えて附記する。

(B5 頁1,102 図649 ¥23,000 千600 医学書院1984)

(北海道大学医療技術短期大学部 理学療法士
高橋 正明)